

様式 1

平成 17 年度茨城大学社会連携支援経費申請書

茨城大学長 殿

申請者 所属 人文学部

代表者氏名 伊藤哲司

(人文学部地域連携委員会)

下記の本年度の社会連携支援経費を申請いたします。

1. プロジェクト名 (40 字以内)

大洗町外国籍住民の生活実態調査

— 「観光立町」を目指す大洗町への政策提言のために—

2. プロジェクトの連携先と連携内容 (別紙可)

連携先： 大洗町

連携内容：

本プロジェクトは、人文学部と大洗町の地域連携協定締結を受け、大洗町と人文学部で構成する「大洗町外国籍住民調査プロジェクトチーム」が合同で行う調査であり、大洗町の外国籍住民の実態を把握し、政策提言へと結びつけることを目的とする。

大洗町の外国人登録者数は90年代初頭には50人に満たなかったが、現在では500人を越えており、このように急速に外国籍人口が増えたことから、外国籍住民の必要とするサービスを十分に把握しきれないという点が近年の行政の課題として認識されている。また住民として生活する上で日本人住民との日常的な交流の円滑化を求める声が地域社会からも聞かれる。特に、災害時に外国籍住民に避難情報が的確に伝わらないといった問題が近年、全国で顕在化している。こうした状況から、大洗町では、外国籍住民に対する住民サービス(災害時の避難方法など、各種外国語による案内の発行等)、および国際交流(日本人と外国人との交流等)の両面に、今後力をいれようとしている。

災害時の避難方法や、医療サービスの現場におけるコミュニケーションの問題は、生死にかかわる問題である。在留資格に関わらない、より現実的で実態に即した対応と、必要なサービス

を提供する方法を確立する必要がある。また国際交流といっても、当地在住の外国人および日常的に交流している地域社会の住民の求めるニーズを把握するために、外国籍住民の生活実態を知ることが欠かせない。

実施にあたっては、以下のように進めて行く。

- (1) 大洗町と協議を継続し、地域社会の国際化を進めていくために必要な基礎的データ(外国籍住民の数、居住の形態、居住目的、労働の実態、教育の場での実情など)を明確にする。
- (2) 調査は、町の協力を得て行う文書資料等の収集と、現場への訪問での実態把握との両面から行う。
- (3) チームのメンバーは、中国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語を使用した地域研究の実績があり、これまでに茨城県の外国籍住民について社会学、経済学の立場から調査研究を実施してきた。このような地域調査・研究の経験や、まちづくりといった専門的見地をいかし、町と共同で調査結果を分析し、報告書をまとめる。
- (4) 地域社会の国際化に向けた施策の提案を行い、その後、具体的な国際交流事業を共同で計画し、実施に協力していく。

申請分野	1 地域の教育力 2 地域環境形成、自治体との連携 3 産官学連携 4 学術文化 5 その他の地域との連携
------	---

### 3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績 (別紙可)

<別紙をご参照ください>

- (1) 人文学部地域連携委員会と大洗町との連携締結記念フォーラム
- (2) アジア女性基金の委託研究、国際結婚におけるタイ人女性の現状に関する調査研究
- (3) 「2002年度茨城大学教育推進経費」による、地域社会の国際化と女性移住者—茨城県における移住女性・行政・NGO連携の可能性

### 4. プロジェクト参加者 (含む申請者)

氏名	学部・学科等	職名	分担内容
伊藤 哲司	人文学部人文学科	助教授	全体の取りまとめと総括
斎藤 義則	人文学部社会科学科	教授	大洗町担当者との連絡調整
稲葉 奈々子	人文学部コミュニケーション学科	助教授	調査の実施と報告書とりまとめ
山本 博史	人文学部社会科学科	教授	調査の実施
渋谷 敦司	人文学部社会科学科	教授	調査の実施
西野 由希子	人文学部人文学科	助教授	調査の実施
東 佳史	人文学部コミュニケーション学科	助教授	調査の実施と通訳者手配

### 3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績（別紙）

#### (1) 人文学部地域連携委員会と大洗町との連携締結記念フォーラム

人文学部と大洗町の包括協定が今年4月に締結されたのを記念し、6月12日、大洗文化センターで、「観光立町を目指したまちづくり——大洗の魅力とは何か、これをどのように発信するか——」というフォーラムが、100名以上の参加者を得て開催された。

鎌田彰仁人文学部教授の総合司会のもと、田中重博人文学部長・小谷隆亮大洗町町長の挨拶に続いて、帯刀治人文学部教授による基調講演「交流人口の拡大をめざすまちづくり」が行われた。さらに斎藤義則人文学部教授の司会で、人文学部・大洗町双方からパネリスト計7名によるパネルディスカッションが持たれ、今後の大学と地域との連携のありかたについて積極的な意見交換がなされた。

このフォーラムの中で、大洗町で生活を送っている外国人のことは直接話題にはされなかったが、そこで話題になったことは外国籍住民にも当然関係する事柄である。外国籍住民を多数抱えている大洗町にとって、彼らを含めたまちづくりが必須であると考えられる。

本プロジェクトは、大洗町が、外国籍住民を含めた「観光立町」のまちづくりをしていく重要性を、あらためて提言するものになるだろう。

#### (2) 国際結婚におけるタイ人女性の現状に関する調査研究

アジア女性基金の委託により、地域総合研究所が、国際結婚をして茨城県に在住するタイ人女性が、地域社会においてみずからの抱える問題にどのように主体的に対応しているか、またどのような支援が地域社会から必要としているかを具体的なインタビュー調査によって研究した。調査メンバーは、渋谷敦司、山本博史、岩佐淳一、稲葉奈々子で構成されている。（添付した報告書を参照されたい）

#### (3) 地域社会の国際化と女性移住者—茨城県における移住女性・行政・NGO連携の可能性

「2002年度茨城大学教育推進経費」の助成をうけて、茨城県における外国籍住民支援組織の女性移住者に対する取り組みについて調査を行った。この研究は、定住外国人がかかえる問題にはジェンダー差があることを前提として、特に支援組織の取り組みに焦点をあてて調査を行ったものである。

茨城県の外国籍住民に関する統計調査と、2003年1月から2月までの2ヶ月間に、郵送によって192団体に依頼したアンケート調査に基づいて分析を行った。調査チームは、(2)と同一メンバーから構成されている。（添付した報告書を参照されたい。）